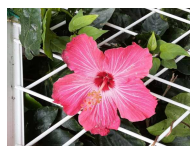


『風は南から』

令和5年度 校長室便り
(7月12日)(第8号)



「必須の無駄」を捨てない

先日、7000人の子どもの命を救った心臓外科医の高橋幸宏先生の記事を読みました。

「私は若い世代の人に言うことは一つだけで、「必須の無駄」を捨てないようにやらないといけない、ということなんです。今の若者は非常に要領がいいものだから、無駄なことを省こう、修行に効率を求めようとするんですね。でも、患者さんや仲間たちとの会話を楽しむとか、一般書を読むとか、他領域の方々と談笑するとか、一見無駄と思うことの中にも外科医として必須なことはある。この必須の無駄を若い時にどれだけ愉しく過ごすかというのはやはり大事だと思います。」

よくコスパとかタイパという言葉を目にするようになりました。効率ばかりが優先されて、できるだけ無駄を省こうという考え方が主流になりつつあります。しかし、一見無駄だと思えることの中に本質が隠されていると思います。この世の中が、経済や実学ばかりが追求され、文学や芸術がないがしろにされると、生活に潤いがなくなってしまいます。皆さんが今学んでいることや体験していることに、無駄なものは何一つありません。逆に無駄に思えることでも、丁寧にできる人であってほしいと、私は考えています。

7月7日「進路ガイダンス」

7月7日(金)の午後から、進学希望者と就職希望者に分かれて、「進路ガイダンス」が行われました。今年は、大学・短大・専門学校等の42名の講師の先生方に来ていただきました。

進路志望先については、インターネット等を利用して調べることもできますが、直接話を聞くのとは少し違います。35分という短い時間ではありましたが、各学校の特徴がよく理解できたのではないのでしょうか。また、就職のマナー指導も、声の出し方や挨拶の仕方等、働くうえで必要な心構えを本格的に学んでいました。

進学希望者へ向けて、志望理由書の書き方等について講演をしていたVITA(ビータ)さんからは、「本当に素直な生徒さんばかりですね。あとは自分の良さを積極的に発信していくことが大事だと思います」とアドバイスをもらいました。また、大学の先生方からも、「熱心に聞いてくれるので、つい時間オーバーになってしまいました」と聞く態度を褒めていただきました。

3年生はいよいよ進路先を決定していく時期になりますが、1・2年生もこれを契機に、自分の進路について真剣に考えてみてください。できれば、夏休みを利用してオープンキャンパス等に参加して、自分の目で確かめるのもいいと思います。



『チャレンジすることは楽しい!』

6月30日(金)期末考査終了後の3限目に、走る冒険家として有名な「岩元みさ」さんに講演をしていただきました。



岩元さんは、鹿児島市出身で現在29才。ポンちゃんという愛称で、県内外の方から親しまれています。ウルトラマラソンランナーとして、サハラマラソン(237キロ)、イランシルクロードマラソン(230キロ)、ナミブレス(251キロ)、そしてつい先日、6月18日から24日までの1週間で行われたモンゴルのゴビ砂漠マラソン(250キロ)を走破されています。今回は、塩田知事から提案された「奄美トレイル」の一環で30日に沖永良部島を訪問することがわかり、体育科の村松先生に調整していただいて、講演が実現しました(現在まで100回近く講演されているそうです)。

講演は、数々のウルトラマラソンでのエピソードや外国で体験したこと、ウルトラマラソンを走るようになった経緯等、多岐に及びました。中でも、遭難した時にSOSを周りに知らせるのに鏡を使うことや南アフリカ共和国でナイフを突きつけられた際に相手と話をすることで友達になれたことなど、大変興味深く聞きました。

強く印象に残ったのは、走る理由でした。高校生の時にいじめに遭い、山口県の高校に自分の意志で再入学したこと、その高校でも挫折したこと、20歳になって、失敗しない生活を送っていても何も楽しくないと感じていたところ、偶然タレントの武井壮さんの「不可能を可能にし、可能を楽にする」という言葉に感化され、もう一度走ることにチャレンジする気持ちになれたこと等、これまでのつらい経験を聞き、彼女がなぜこんな過酷な冒険にチャレンジしているのか、その理由が少しわかりました。

講演の最後に、生徒会長の川上天歌さんが「岩元さんの失敗してもあきらめず、何度でもチャレンジしようとする姿勢に感銘を受けました。本日の講演が、私たちの夢が広がり、夢を見つける一歩になりました」とお礼の言葉を述べました。

今後は、ナミブレスとゴビ砂漠マラソンを完走できたことで獲得した出場権を生かして、南極大陸で行われるマラソン大会に参加するそうです。

7月4日「心肺蘇生法講習会」

7月4日(火)7限目に、沖永良部消防署の隊員の方3名に来ていただいて、1年生全員が「心肺蘇生法講習」を受講しました。最初に講義があり、続いてクラスごとに分かれて心臓マッサージとAEDの使い方を体験しました。

心臓マッサージは、胸が4・5センチ沈むまで1分間に100回のテンポで押さなければならず、やってみると想像以上に大変な作業で、みんな汗をかきながら熱心に取り組んでいました。

もし、いざという時に遭遇したら、臆せず躊躇せず、救急隊員が到着するまで、学んだことを実践してください。

